

このたびは、スズキ カインドチェア を お買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用の前にご本人さまおよび介助の方は、必ずこの取扱説明書をお読みください。カインドチェアの取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも安全・快適にご使用ください。

- 本書は、カインドチェアの取扱い、装備の説明、万一のときの処置などについて説明しています。
- 「**必読！安全運転のために**」は、とくに重要な項目です。しっかりお読みください。
- 本書では、次の記号を使用しています。  **警告**、  **注意**、  **アドバイス** は、とくにしっかりお読みください。

 警告	取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害を生じる可能性が想定される内容です。
 注意	取扱いを誤ると、傷害を負う可能性がある、または物的損害の発生が予想される内容です。
 アドバイス	カインドチェアのために守っていただきたい、または知っておくと便利な内容です。

- イラストの中で「**X**」の記号が使用してあるときは、図示されている行為の禁止を示しています。
- 本書には、点検整備の記録簿と保証書が含まれています。大切に保管してください。
- カインドチェアをおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書をお渡しください。
- 購入店またはスズキ代理店で取り付けられた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 装備品の装着などにより、法令で定める電動車いすの最大寸法（全長1,200mm、全幅700mm、全高1,090mm）を超えた状態で公道を走行する場合は、所轄の警察署へ申請をして署長の確認が必要です。詳しくは購入店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 仕様などの変更により、本書の内容とカインドチェアが一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。

必読！安全運転のために

各部の名称	2	使用上の注意	9
運転の前に	4	その他の留意事項	10
運転時の注意	6	ラベル	11

取扱いの方法

補助輪（転倒防止装置）	13	操作ボックス	19
クラッチレバー	14	フットサポート	20
スイッチ、レバーの使いかた	15	アームサポート	24
バッテリー残量表示	16	日常の手入れ	24
駐車ブレーキ	18		

運転のしかた

乗り降りのしかた	25	手動での自走のしかた	29
介助のしかた	26	電動走行のしかた	30

充電のしかた

充電のしかた	35
--------------	----

点検・整備

日常点検	39	バッテリー	43
定期点検記録簿	40	タイヤ	44
長期保管後の使用前点検	42	駐車ブレーキ	44
臨時整備記録簿	42		

保管・運搬

保管	45	運搬	46
----------	----	----------	----

サービスデータ

諸元表	50	外観図	52
静的安定性試験結果	51	車台番号	53
動的安定性試験結果	51		

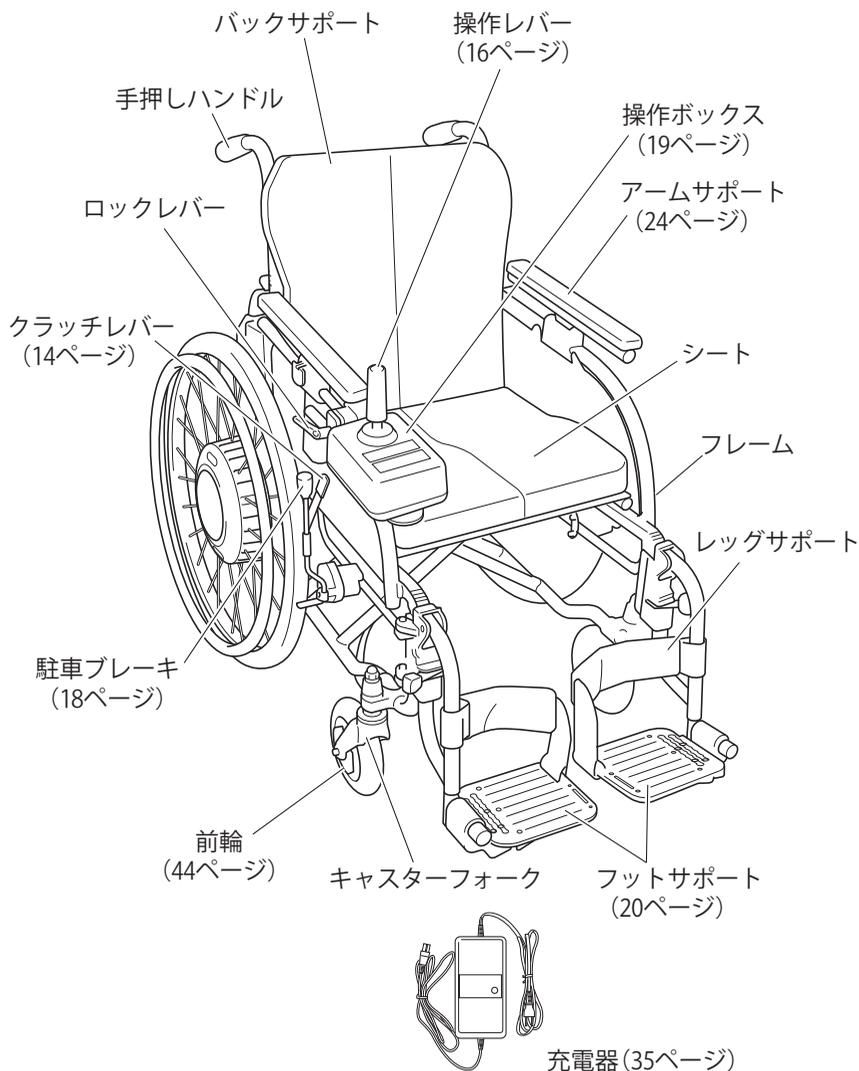
困ったときは

こんなときは	54	お問い合わせ、ご相談は	64
さくいん	63		

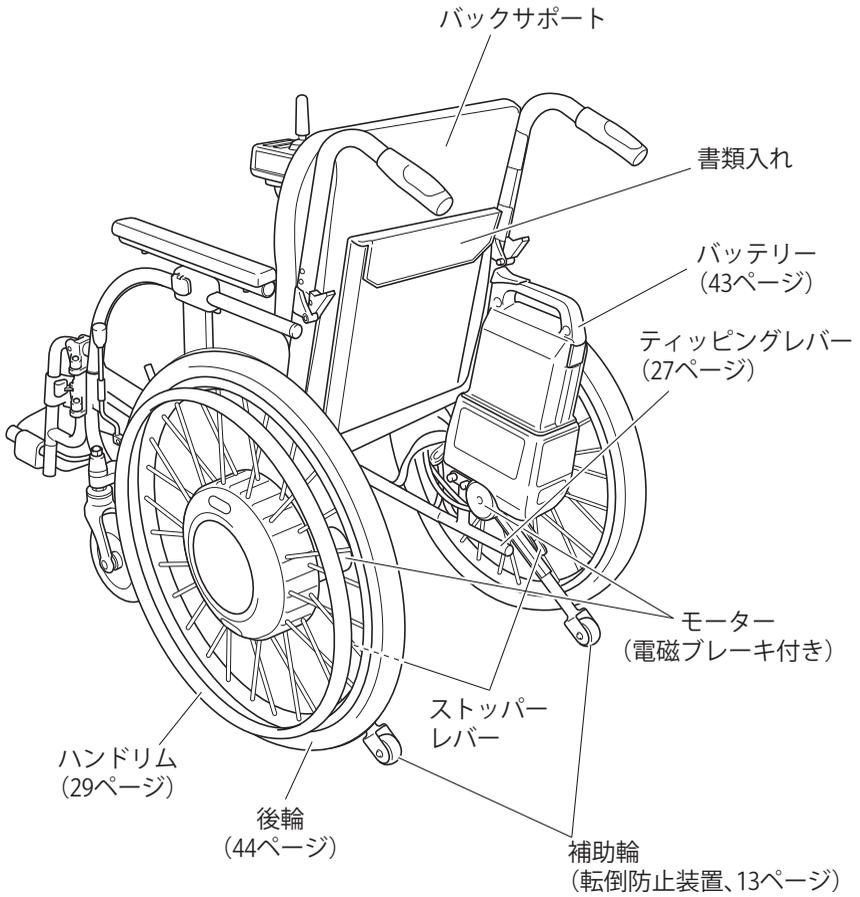
保証書

車両受領書・保証書	巻末
-----------------	----

各部の名称



必読！安全運転のために



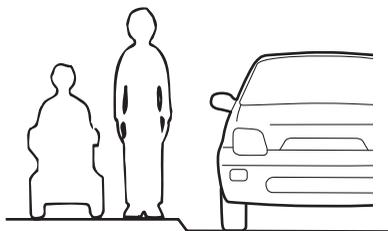
93GA31002

必読！安全運転のために

運転の前に

注意事項を守り、安全な運転を心がけてください。

カインドチェアは歩行者



92GA110003

▲ 注意

- カインドチェアは、道路交通法では歩行者として扱われ、運転免許は必要ありません。「歩行者」として交通ルールやマナーを守ってください。
- 歩道や横断歩道を通り、歩道のないところは、右側通行してください。横断歩道では、一時停止で安全を確認してください。
- 歩道が途切れた所や、通行できないためやむを得ず車道に出るときは、車や段差に十分注意してください。
- 斜め横断はしないでください。渡り切るのにより時間がかかるため、他の交通のさまたげになることがあります。
- 混雑している場所は避けるようにしてください。
- 飲酒・疲労時の運転はしないでください。

- 歩行者用標識や信号を守ってください。

〈歩行者用標識の例〉



●歩行者横断禁止

●歩行者専用



●自転車及び歩行者専用



92GA110004

- 夜間の走行は、避けてください。

十分な練習を



92GA110005

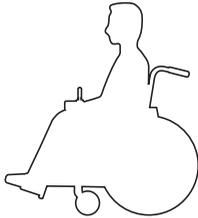
▲ 注意

- 走行または取扱いに慣れるまでは、公園などの安全な広い場所で練習し、発進、停止、旋回、後進などの感覚を覚えてください。
- 練習開始の際は、速度切替スイッチを「遅」（最高速度：2.5km/h）の位置にして始めてください。
→ 14ページ
（速度切替スイッチ）

→ 32ページ
(走行速度について)

- はじめて道路に出るときは、介助者と一緒に、安全を確かめながら走行してください。

カインドチェアは1人乗り



92GA110006

⚠ 警告

- カインドチェアは1人乗りです。2人乗り（子供も含む）はしないでください。
- カインドチェアは、お体の不自由な方の移動手段です。遊具として使用するなど、本来の目的以外には使用しないでください。

荷物の運搬、けん引はしない

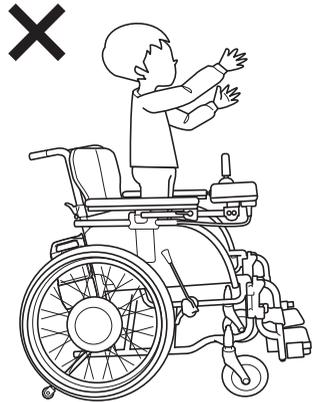


92GA110007

⚠ 注意

- 荷物の運搬やけん引には使用しないでください。
- ペット（犬）などのリードを持ったり、カインドチェアに結んだ状態で走行したりしないでください。
- 使用者最大体重（積載物を含む）は75kgです。この重量を超えて使用すると、故障や破損の原因となります。

シートの上には立たない



92GA1100081

⚠ 警告

カインドチェアの上で立ち上がらないでください。転倒事故の原因となります。

必読！安全運転のために

日常点検を確実に

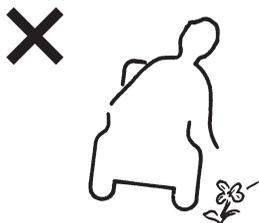
- 走行する前には、必ず日常点検を行なってください。
→ 39ページ（日常点検）
- この取扱説明書は大切に保管し、いつでも見ることができるように入れてください。

運転時の注意

運転は正しい姿勢、運転に適した服装で

⚠ 警告

カインドチェアから身体をはみ出さないでください。バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

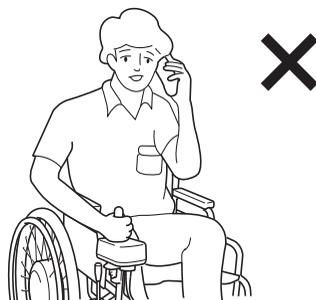


92GA110015

⚠ 注意

- 運転する際は、シートに深く腰をかけて正しい姿勢で座り、立ち上がったたりしないでください。
- 運転する際は、車輪に巻き込まれたり、運転の支障となったりするような服装は避けてください。
- 積載物などが車輪に巻き込まれないよう注意してください。

携帯電話などの使用について



92GA1100171

⚠ 注意

- 走行中は、携帯電話や無線通信機器などを使用しないでください。使用するときは安全な場所に停止し、カインドチェアの電源スイッチを「切」にしてください。
- 携帯電話や無線通信の電源をカインドチェアのバッテリーからとらないでください。

次の運転は避けて

⚠ 警告

- 次のような場所や状況では、接触や衝突、転倒のおそれがあります。運転を避けるか、介助者に同行してもらい、安全確認や脱輪予防をしてください。
 - ・ 混雑している場所
 - ・ 交通量の多い道路
 - ・ 幅の広い道路の横断歩道
 - ・ 踏切
 - ・ 電車などの乗り物に乗るときなど
 - ・ 狭い道
 - ・ 防護柵のない側溝や路肩付近

- 脱輪などで動けなくなった場合には、自走で脱出しようとせず、周囲にいる人の助けを借りてください。無理に脱出しようとすると、事故や故障の原因となります。
- 次のような場所や状況での走行は避けてください。事故や故障の原因となります。
 - ・急な坂道
 - ・下り坂での後進や中高速走行
 - ・急な傾斜面の横断
 - ・重積載（乗員含む）走行
 - ・大きな溝や段差
 - ・ぬかるみや雪道、凍結路面等の悪路
 - ・夜間
 - ・降雨や濃霧、強風等の悪天候時



92GA110009

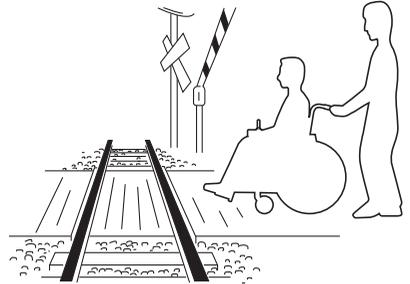
- 蛇行運転、急旋回、急発進、急制動は避けてください。

踏切を横断するときは

▲注意

- 介助者に同行してもらい、踏切の手前で一時停止して安全確認のあと、線路の溝にはまらないよう、線路に対して直角に横断してください。

- 踏切内で停止しないよう、すみやかに横断してください。



92GA110010

▲警告

- 踏切内で動かなくなったときには、介助者や近くの人に協力してもらって、手押し移動してください。
→ 13ページ（クラッチレバー）
- 万一、踏切内から脱出できないような最悪の場合には、介助者や近くの人に協力してもらって、踏切に設置されている非常ボタンを押してください。

エスカレーターの使用禁止

警告

乗車したままのエスカレーターの使用や、階段の上り下りはやめてください。転倒のおそれがあります。（車いす用機能付のものは除く）

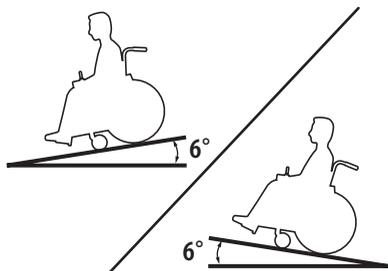


92GA110016

急な坂道、大きな段差や溝は避けて

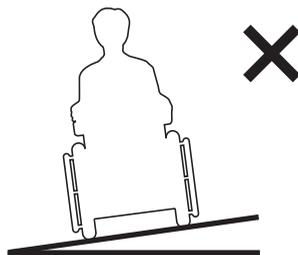
警告

●急な坂道の走行は避けてください。転倒などの事故の原因となります。走行できる角度は登坂、降坂ともに 6° が目安です。



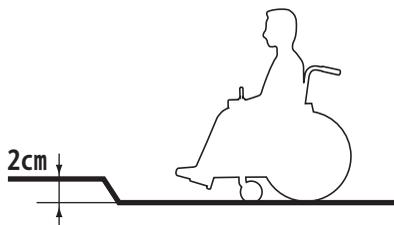
92GA110034

- 登坂限界を超えると、警告ブザーが鳴り、同時にバッテリー残量表示が点滅します。警告ブザーが鳴ったときは、ただちに登坂を中止して引き返してください。なお引き返す際は転倒のおそれがありますので、周囲の安全を確かめてから低速で慎重に方向転換してください。
- 坂道を後ろ向きで降りると、転倒のおそれがあります。必ず前向きになって降りてください。
- 坂道は、上り下りとも前進で真っ直ぐゆっくりと走行してください。
- 急な傾斜面の横断は避けてください。横転のおそれがあります。



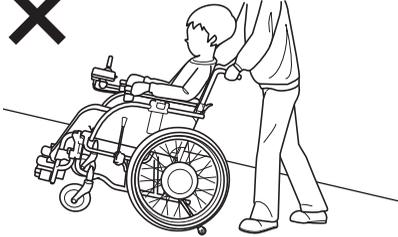
92GA110012

- 大きな段差の通過は避けてください。通過できる段差は2cmが目安です。
- 段差を通過するときは、段差に対して直角に前進走行してください。



92GA1100131

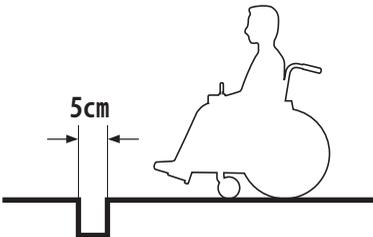
- 坂道では、手押し走行しないでください。衝突・転倒のおそれがあります。



92GA1300291

▲ 注意

- 下り坂では、速度切替えスイッチを「遅（低速）」にして前進で慎重に降りてください。
- 介助者が同行していても、坂道で停止したままにしないでください。
- 大きな溝の通過は避けてください。溝に落ちると、脱出できなくなるおそれがあります。通過できる溝幅は5cmが目安です。
- 溝を通過するときは、溝に対して直角に前進走行してください。



92GA1100141

使用上の注意

バッテリー

▲ 注意

- バッテリーの周囲温度が -10°C 以下の低温、 40°C 以上の高温では、走行や保管をしないでください。バッテリーが凍結したり過熱したりして、早期劣化の原因となります。
- バッテリーの周囲温度が 0°C 以下の低温、 30°C 以上の高温では、充電しないでください。破損や変形、早期劣化の原因となります。

修理、改造

ご自身でカインドチェアを改造しないでください。修理や改造が必要な場合は、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な修理や改造をした場合は、保証が得られないことがあります。

▲ 注意

不適切な修理や改造は、安全性を低下させ、事故や故障の原因となります。

必読！安全運転のために

純正部品

部品交換時は、スズキ純正部品を使用してください。

↓mアドバイス

部品の交換は、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

環境保護、リサイクル

環境保護および限りある資源を守るため、カインドチェアやバッテリーをむやみに捨てないでください。

- カインドチェアが不要となった場合は、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 使用済みバッテリーはリサイクル（回収・再資源化）のため、購入店またはスズキ代理店にお渡しください。カインドチェアのバッテリーは、限りある希少な資源が使われています。



Ni-MH
ニッケル水素電池

92GA110031

その他の留意事項

⚠警告

- 故障や異常のあるときは、使用しないでください。事故や転倒などによるケガの原因となります。
- バックサポートや手押しハンドルに物を引っ掛けしないでください。カインドチェアが不安定になり、転倒事故の原因となります。
- バックしながら急停止しないでください。転倒事故の原因となります。

⚠注意

- カインドチェアが身体に合わない場合は、使用しないでください。健康をそこなうおそれがありますので、医師に相談してください。
- 火気の近くに置かないでください。タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となったりします。

ラベル

取扱上の重要な事項を記載したラベルがカインドチェアに貼ってあります。ご使用の前に、必ずお読みください。ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。（車台番号、JISマーク、TSマークのラベルは53ページ参照）

⚠ 注意

走行前には左右のクラッチレバーが「電動」になっているか確認してください。

⚠ 注意

下り坂では必ず「前進・遅」で慎重に降りて下さい。



⚠ 警告

衝突・転倒の恐れがあります。坂道でクラッチレバーを「手動」位置で使用しないでください。

手動

電動

ランプ
の
見
方

赤ランプ 点灯…充電中
点滅…充電待機中
赤・緑ランプ 消灯…充電完了

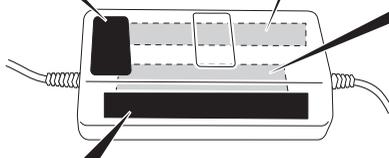
緑ランプ 点灯…リフレッシュ中
点滅…リフレッシュ待機中

* 充電およびリフレッシュが待機中の場合はバッテリーが適正な温度になると自動的に充電およびリフレッシュを開始します。

リフレッシュ充電は

走行できる距離が短くなった場合など月一回をめやすに行ってください。

〈充電器〉



※底面に貼付

充電時間めやす

通常充電・・・充電のみ行います

充電時間は、電池の状態や外気温などで異なりますが、30分～6時間です
・電池残量が多い時は充電時間が短くなります

リフレッシュ充電

・・・メモリ効果を解消し、残量計を正すために行います

充電時間は、電池の状態や外気温などで異なりますが、6～24時間です

・電池残量が多い時は時間が長くなりますので、リフレッシュ充電は時間に余裕がある時に行ってください
・走行できる距離が短くなった場合など月一回をめやすに行ってください

◇ JET A-TAMURA-S
入力：AC100V 50-60Hz 105VA
出力：DC28V 1.65A

製造番号

スズキ株式会社 日本製

⚠ 警告

取り扱い説明書をよく読んで使用してください。

・感電の恐れがあります。濡れたプラグや濡れた手で充電しないでください。
・引火爆発の恐れがあります。充電中バッテリーに火気を近づけないでください。

⚠ 注意

次のような使用は避けてください。

・専用バッテリー以外の充電
・雨や水のかかる所での充電
・乳幼児の手の届く所での充電
・分解、改造、落下衝撃

必読！安全運転のために

⚠ 注意

- 取扱説明書をよく読んでから使用して下さい。
- 電動車いすは、歩行者扱いになります。歩行者としての交通ルールを守って走行して下さい。

⚠ 警告

- ・火の中や水の中に投下したり、加熱しないでください。破裂、発火する恐れがあります。
- ・電池の（＋・－）端子を針金等でショートさせないでください。発熱、破裂、発火する恐れがあります。

⚠ 注意

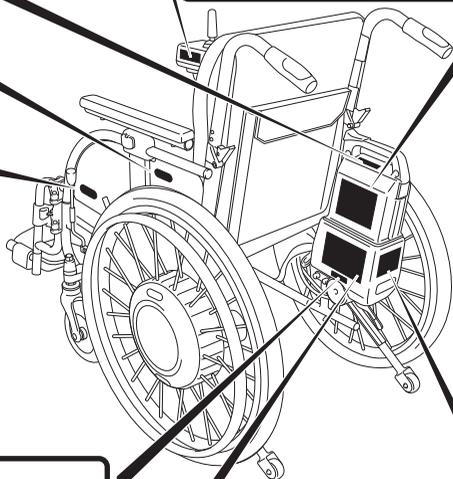
- ・強い衝撃を与えたり、分解、改造をしないでください。
- ・電池を本電動車椅子以外には、使用しないでください。
- ・専用充電器以外による充電はしないでください。
- ・ケースが破損した場合は、販売店で電池の検査を受けてください。
- ・使用済みの電池は、リサイクルのため販売店にお渡しください。

 **Ni-MH 24V 9000mAh**
スズキ株式会社

⚠ 注意 このグリップを持って車いすを持ち上げないでください。

電動

手動



定格電圧：DC24V
バッテリー型式：20HR-DUX-SUZ

⚠ 注意

- 使用者最大体重（積載物を含む）は75kgです。ただしAC20U/22Uは装着する車いすによって異なります。この重量を超えて使用すると、当製品は壊れて機能なくなります。この場合には保証の対象外です。
- 次の様な場所や状況下での走行は、避けるか介助者を同行して下さい。
 - 急な坂道 ●下り坂の後進 ●下り坂での中高速走行
 - 傾斜面の横断 ●重積載（乗員含む）走行 ●幅の広い溝
 - 大きな段差 ●ぬかるみ、雪道、凍結路 等の悪路
 - 急旋回、蛇行運転 ●雨天、濃霧、強風 等の悪天候時

⚠ 注意

- 携帯電話や無線通信機器等は、安全な場所に車を止め、電源スイッチを「切」にしてご使用ください。
- 走行中、電磁波の影響を受けると警告ブザーが鳴り停止することがあります。この場合は電源スイッチを一度「切」にして、再度「入」にすれば走行可能となります。

補助輪(転倒防止装置)

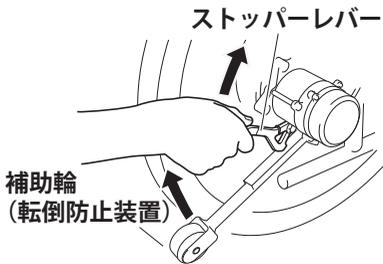
警告

補助輪は絶対に取り外さないでください。また、補助輪を上げたまま走行しないでください。後方に転倒するおそれがあります。走行するときは、必ず補助輪を降ろしてください。

上げかた

カインドチェアを送迎車に積み込む際や、介助者などにより一時的に段差を乗り越える際には、次のようにして左右両側の補助輪を上げます。

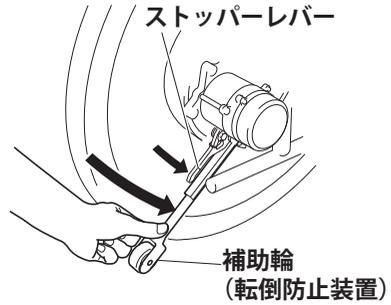
- ストッパーレバーを引き上げ、補助輪が上方に上がったことを確認します。



92GA220013

降ろしかた

走行の際には、左右両側の補助輪を押し下げ降ろします。ストッパーレバーがロックしたか確認します。

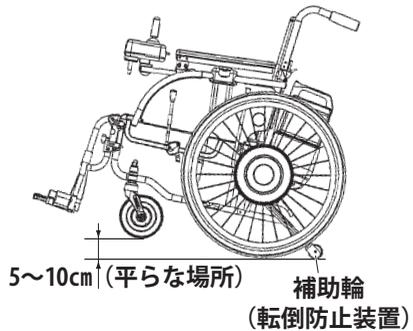


92GA220014

アドバイス

ストッパーレバーは、補助輪を押し下げることにより自動的に下がり、ロックします。

- 次に平らな場所で、補助輪を接地させ、前輪と地面の間が5~10cm開いているか確認します。



92GA32015

取扱いの方法

クラッチレバー

「電動」と「手動」との切り替えを行なうときに使用します。

- 「電動」：モーター駆動による走行ができます。手押しやハンドリムによる走行はできません。
- 「手動」：介助者による手押し走行やハンドリムによる自走、またはカインドチェアを移動するときなどに使用します。

警告



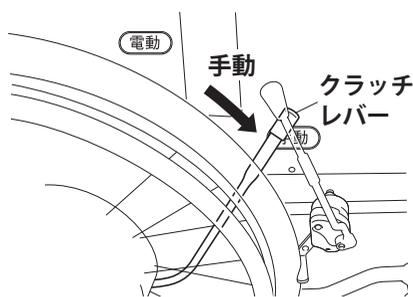
- 衝突・転倒のおそれがあります。坂道ではクラッチレバーを「手動」位置で使用しないでください。クラッチレバーを「手動」位置にする場合は、平坦路で行なってください。
- クラッチレバーに体重をかけたり、クラッチレバーを持ってカインドチェアを持ち上げたりしないでください。

注意

- 安全のため、クラッチレバーを左右両側同時に「手動」位置に切り替えしないでください。突然カインドチェアが動き出すおそれがあります。左右両側の駐車ブレーキをかけたうえで、片側ずつ「手動」位置に切り替えてください。
→ 18ページ（駐車ブレーキ）
- 左右両側のクラッチレバーがともに「電動」または「手動」になっているか確認してください。
- 「手動」位置で放置しないでください。手動でカインドチェアを動かすとき以外は、必ず「電動」位置にもどしてください。

切り替えかた

左右両側のクラッチレバーを押し下げると「手動」に切り替わります。



92GA1200101

左右両側のクラッチレバーを引き上げると「電動」に切り替わります。



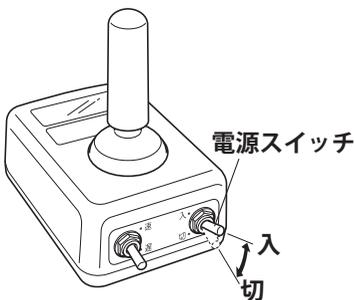
92GA1200091

スイッチ、レバーの使いかた

電源スイッチ

スイッチを上下に操作すると、電源の入一切 (ON-OFF) ができます。

- 「入」：走行できます。
- 「切」：走行できません。



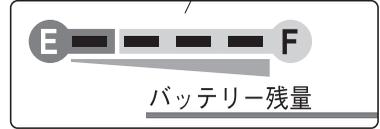
92GA120001

⚠️ アドバイス

- 電源スイッチを「入」にするとバッテリー残量表示がすべて点灯し、そのあとバッテリー残量を表示します。

- 最初にすべてのランプが点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

バッテリー残量表示



92GA120002

速度切替えスイッチ

スイッチを上下に操作すると、最高速度を2段階に切替えできます。

→ 33ページ (走行速度について)



92GA120003

	スイッチ位置	最高速度
前進時	速 (高速)	4.5km/h
	遅 (低速)	2.5km/h

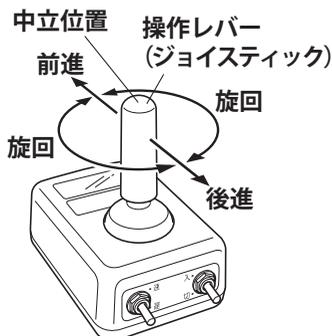
⚠️ アドバイス

後進の際は、速度切替えスイッチがどちらにあっても最高速度は2.0km/hになります。

取扱いの方法

操作レバー（ジョイスティック）

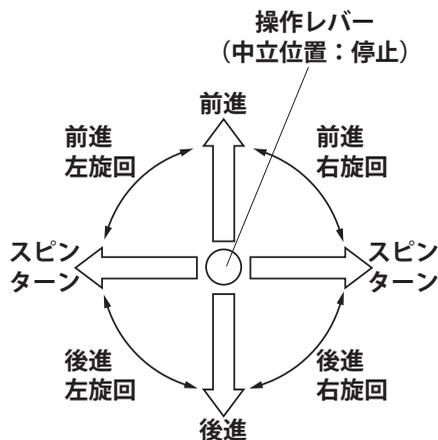
- 進行したい方向にレバーをゆっくりと倒します。
- レバーの倒し加減で走行スピードを調整します。
- レバーから手をはなすと、自動的に中立の位置にもどります。レバーが中立の位置にもどると、自動的に停止して電磁ブレーキがかかります。



92GA1200041

アドバイス

操作レバーを倒したまま電源スイッチを「入」にしたり、電源スイッチを「入」にした瞬間に操作レバーを倒したりしないでください。警告ブザーが連続して鳴り発進できません。一度操作レバーから手をはなしてから、操作レバーをゆっくりと倒してください。

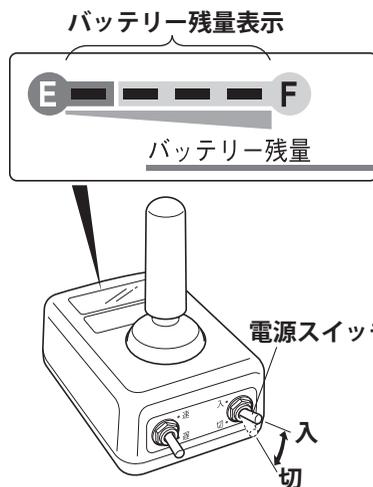


92GA120005

バッテリー残量表示

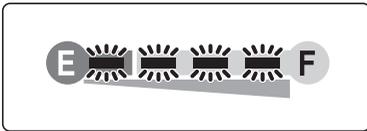
バッテリー残量表示

電源スイッチを「入」にすると4灯すべて点灯し、そのあとバッテリー残量を表示をします。



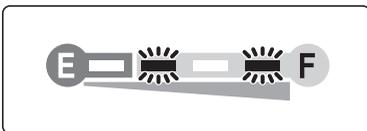
92GA120006

- バッテリー残量表示が2灯から1灯に減少するとき、警告ブザーが3回鳴ります。(ピー、ピー、ピー)
- バッテリー残量表示が1灯のまま走行を続けると、やがて警告ブザーが鳴り続けます。(ピー、ピー、ピー、ピー・・・)
- この状態でさらに走行を続けると、やがてカインドチェアは停止します。このとき警告ブザーは連続して鳴り続けます。(ピー——・・・)
- 過負荷により停止した場合は、図のように4灯すべてが点滅し、警告ブザーが連続して鳴ります。(ピー——・・・)



92GA1200081

- バッテリー残量表示が図のように点滅する場合は故障が考えられます。購入店またはスズキ代理店にご相談ください。



92GA1200071

⚠ 警告

1灯のみ点灯 (E□□□F) した状態で走行を続けると、やがて点滅 (E[■]□□□F) し、カインドチェアは停止します。緊急時やむを得ない場合は、一旦電源スイッチを「切」にして再び「入」にすると、

さらに数メートル走行できますが、カインドチェアが予期せぬ動きをして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、バッテリーを著しく劣化させる原因となります。緊急時以外は避けてください。(□点灯、[■]点滅、□消灯を示します)

📌 アドバイス

- 電源スイッチを「入」にすると、バッテリー残量表示がすべて点灯しますので確認してください。点灯しない場合は、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 次のようなときは、バッテリー残量の減少が早くなる傾向があります。
 - ・バッテリーの働きが弱くなる冬期
 - ・登坂走行や、段差乗り越えなどの多いところでの走行時
- バッテリーは長期間使用しないと自己放電し、残量が低下します。
- 同じような使い方をしていても、バッテリー残量の減少が早くなってきたり、走行できる距離が次第に短くなってきたりしたときは「リフレッシュ充電」をしてください。
 - 38ページ (リフレッシュ充電)
- バッテリーは正しく使用していても月日が経つと徐々に性能が低下していくため、新品時に比べ走行できる距離は短くなっていきます。

取扱いの方法

駐車ブレーキ

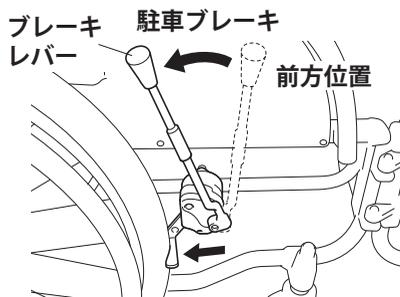
警告



- 衝突・転倒のおそれがあります。坂道では駐停車しないでください。
- ブレーキレバーに体重をかけたり、ブレーキレバーを持ってカインドチェアを持ち上げたりしないでください。
- 駐停車する場合は、必ず左右両側の駐車ブレーキをかけてください。

駐停車時

左右両側のブレーキレバーを前方位置から後方に押し付けることにより、駐車ブレーキをかけます。



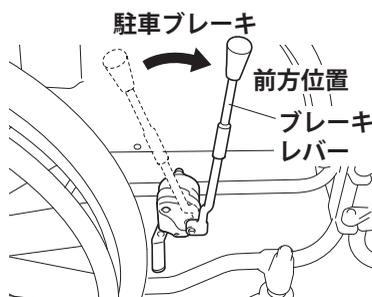
92GA1200111

注意

左右両側の駐車ブレーキが正しく作動するか確認してください。

走行時

左右両側のブレーキレバーを前方位置にし、駐車ブレーキを解除します。



92GA1200121

警告

走行中に駐車ブレーキをかけないでください。バランスを崩し、転倒するおそれがあります。また、タイヤ破損の原因となります。

注意

左右両側の駐車ブレーキが解除されているか確認してください。

操作ボックス

▲ 注意

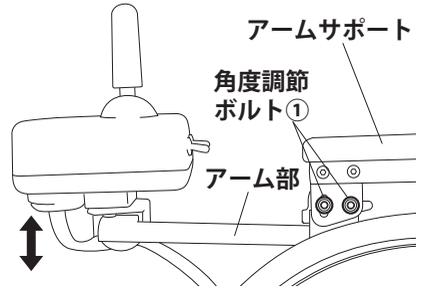
- 乗り降りの際は、操作ボックスに体重をかけないでください。
- 取付位置の調節の際は、配線を引っ張りすぎたり、ゆるませすぎたりしないでください。
- 操作ボックスの取付位置によっては、法令で定める電動車いすの最大寸法（全長1,200mm、全幅700mm、全高1,090mm）を超える場合がありますが、その状態で公道を走行しないでください。やむを得ず超えて公道を走行する場合は、所轄の警察署へ申請をして署長の確認が必要です。詳しくは、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚡ アドバイス

- 操作ボックス下の固定ボルトで、ボックスの左右位置も調節可能です。
- 取付位置の調節については、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

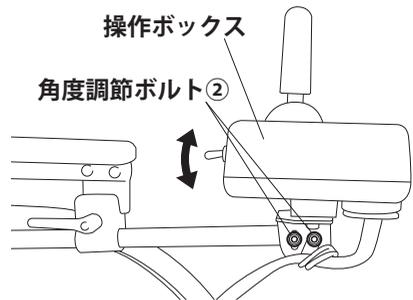
高さの調節

- アームサポート側の角度調節ボルト①（六角穴付ボルト）で、操作ボックスが好みの高さになるように、アーム部の角度を調節します。



92GA120016

- 操作ボックス側の角度調節ボルト②（六角穴付ボルト）で、操作ボックスの角度を調節します。



92GA120017

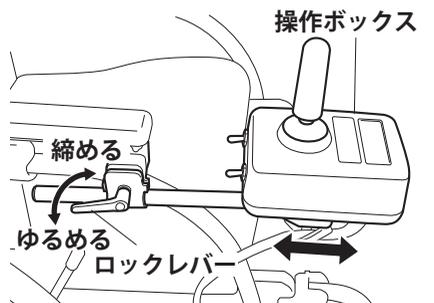
締付トルク：10N・m (100kgf・cm)

前後位置の調節

- 1 ロックレバーをゆるめ、操作ボックスが好みの位置になるように調節します。

取扱いの方法

- 2 ロックレバーを締め付け、操作ボックスが確実に固定されたか確認します。

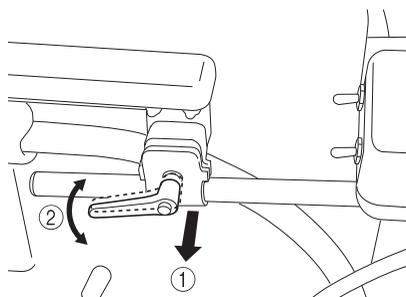


92GA120018

ロックレバーのラチェット機構

ロックレバーの位置を変更できます。

- 1 ロックレバーを外側に引き出します。(図中①)
- 2 ロックレバーを回転させ、好みの位置に変更します。(図中②)



92GA120019

- 3 ロックレバーを車体側にもどします。

フットサポート

警告

乗り降りの際にフットサポートの上で立ち上がったり、フットサポートをステップとして使用したりしないでください。バランスを崩し、転倒のおそれがあります。また、フットサポートが破損する原因となります。

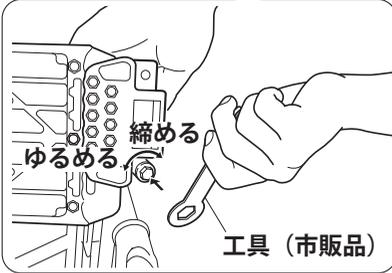
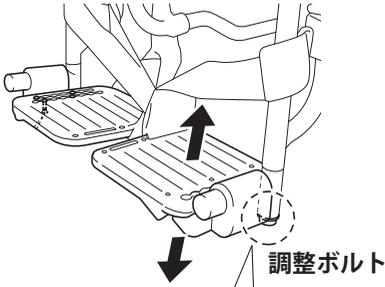
注意

カインドチェアを持ち上げるときは、フットサポートを持たないでください。破損のおそれがあります。本体のフレーム部分を持ってください。

高さの調節

- 1 工具（市販品）で調節ボルトをゆるめ、上下に調節します。
- 2 調節後は、工具で調節ボルトを確実に締めつけます。

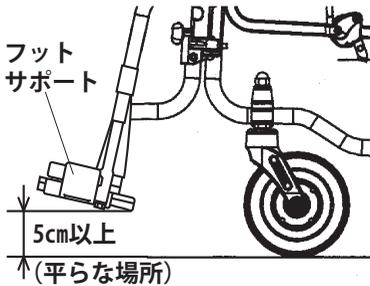
締付トルク：20N・m (200kgf・cm)



92GA1200201

警告

- フットサポートと路面との間隔は、平らな場所で測って5cm以上確保してください。間隔がせまいと、路面の凸凹や障害物にフットサポートが引っかって、転倒するおそれがあります。



92GA120021

- 調節後はフットサポートが確実に固定されているか確認してください。フットサポートが脱落すると、事故の原因となります。

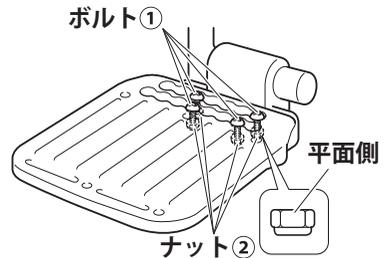
アドバイス

高さ調節については、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

前後位置の調節

- 1 ボルト①（六角穴付ボルト）およびナット②を取り外します。
- 2 フットサポートを適切な位置になるように調節し、図のようにボルト①およびナット②をフットサポートの位置に応じて取り付け、ボルト①を締め付けます。

締付トルク：7N・m (70kgf・cm)

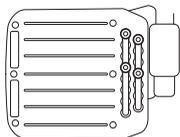


92GA120035

取扱いの方法

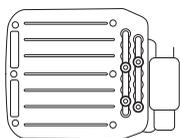
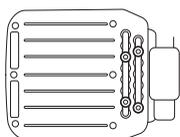
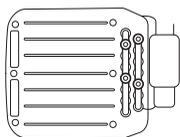
前後位置の調節可能範囲

最前方位置

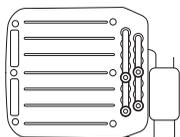


前方

中間位置



最後方位置



※上図は左側のフットサポートを示しています。

92GA120036

▲ 注意

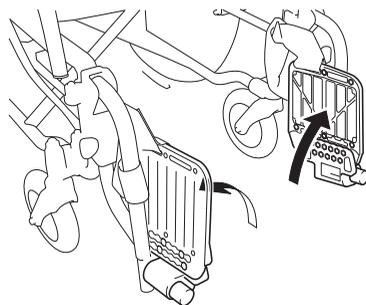
ナット②を取り付ける際、平面側を上にして取り付けてください。

📌 アドバイス

前後位置の調節については、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

たたみかた

フットサポートを矢印方向に回転させてたたみます。

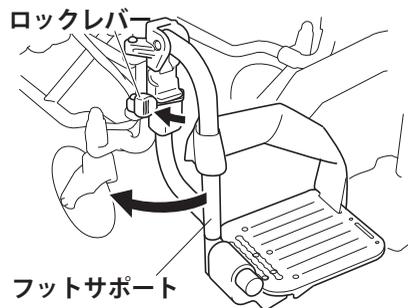


92GA120038

取外し

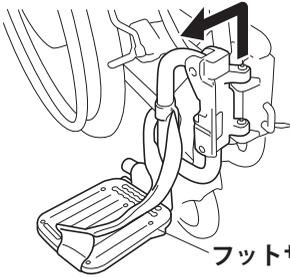
フットサポートは、乗り降りや運搬がしやすいように、スイングアウト（外開き）させたり、取り外したりすることができます。

- 1 ロックレバーを外側に押しながら、フットサポートを外側に回転させます。（スイングアウト）



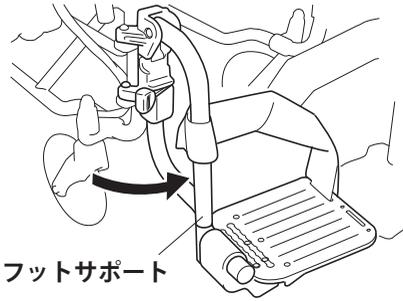
92GA120022

- 2 フットサポートを上側に持ち上げ、引き抜きます。



フットサポート

92GA120023



フットサポート

92GA120025

取付け

- 1 フットサポートのピンを車体取付穴に合わせ挿入します。



フットサポート

92GA120024

- 2 フットサポートを、「カチッ」と音がしてロックするまで内側に回転させます。

▲ 注意

フットサポートをゆするなどして、確実にロックされたか確認してください。足を乗せたときに外れて、けがのおそれがあります。

取扱いの方法

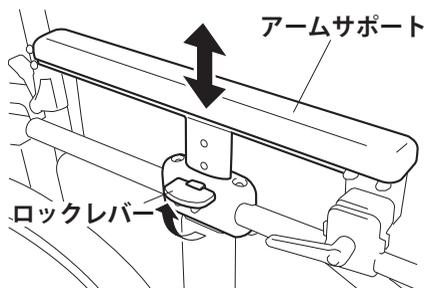
アームサポート

▲ 注意

カインドチェアを持ち上げるときは、アームサポートを持たないでください。破損のおそれがあります。本体のフレーム部分を持ってください。

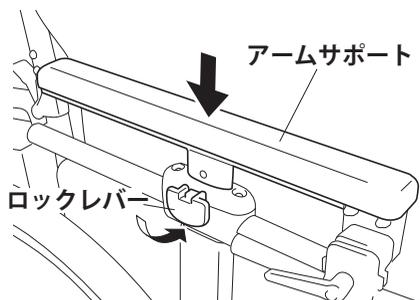
高さの調節

- 1 ロックレバーを引き上げてロックを解除し、アームサポートを適切な高さに調節します。



92GA120026

- 2 ロックレバーを押し下げてから、アームサポートを矢印の方向に押し込んで固定します。



92GA120027

▲ 注意

- 調節中に、アームサポートの下に手や指を入れないでください。手や指をはさんで、けがのおそれがあります。
- アームサポートをゆするなどして、確実に固定されたか確認してください。

日常の手入れ

よく水気を絞ったやわらかい布で、車体の汚れをふき取ってください。汚れがひどい場合は中性洗剤を布にしみ込ませてふき取り、そのあと水気を絞ったやわらかい布でふいてください。

▲ 注意

- 手入れする場合は、電源スイッチを「切」位置にしてから行ってください。
- 水洗いはしないでください。電気系統の故障の原因となります。



92GA120028

- ガソリン・シンナー・ベンジンなどは使用しないでください。変形・損傷などの原因となります。
- ワックスを使用しないでください。運搬するときなどに手がすべり、けがのおそれがあります。

乗り降りのしかた

⚠ 警告

- 乗り降りの際は、次のように行なってください。カインドチェアが動いてバランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
 - ・ 平らな場所へ移動する
 - ・ 電源スイッチを「切」にする
 - ・ 左右両側のクラッチレバーを「電動」位置にする
 - ・ 駐車ブレーキをかける
- フットサポートの上に立たないでください。カインドチェアがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。

⚠ 注意

乗り降りの際は、操作ボックスに体重をかけないでください。

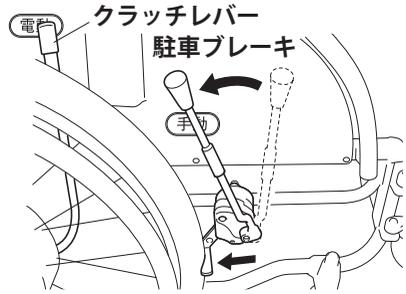
👉 アドバイス

介助者は、必要に応じてフットサポートを外すなどして、乗り降りを補助してください。

→ 20ページ(フットサポート)

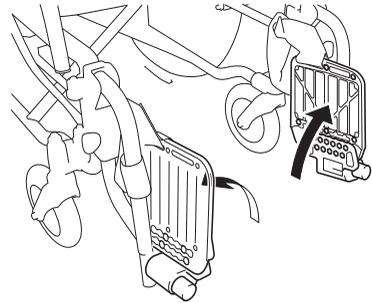
乗るとき

- 1 カインドチェアが動かないように、左右両側のクラッチレバーを「電動」位置にし、駐車ブレーキをかけます。
 - 14ページ(クラッチレバー)
 - 18ページ(駐車ブレーキ)



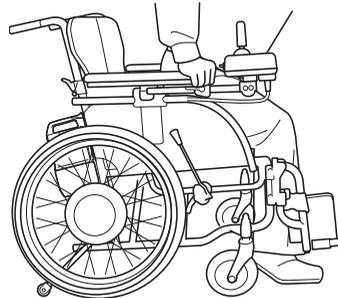
92GA1300011

- 2 フットサポートを矢印方向に回転させてたたくみます。



92GA130002

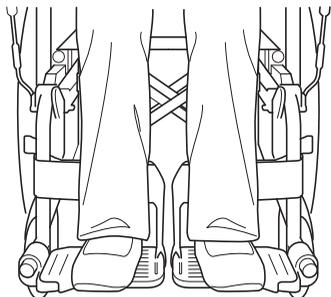
- 3 両手でアームサポートを持ち、ゆっくりと座り込みます。



92GA1300031

運転のしかた

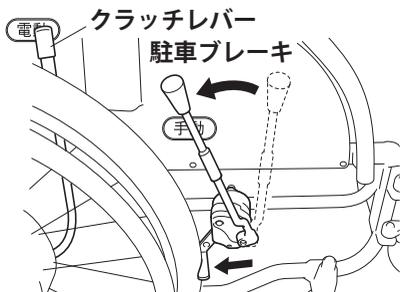
- 4 フットサポートをもとにもどし、足を乗せます。



92GA130004

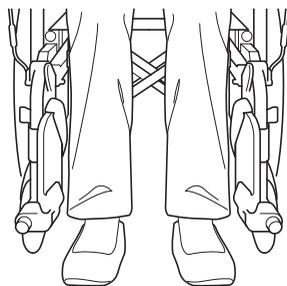
降りるとき

- 1 カインドチェアが動かないように、左右両側のクラッチレバーを「電動」位置にし、駐車ブレーキをかけます。
- 14ページ (クラッチレバー)
 - 18ページ (駐車ブレーキ)



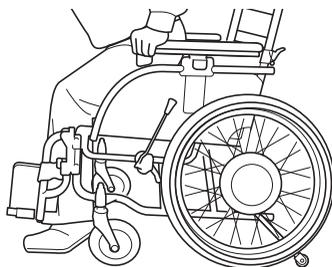
92GA1300011

- 2 フットサポートをたたみ両足を下ろします。



92GA130006

- 3 両手でアームサポートを持ち、ゆっくりと立ち上がります。



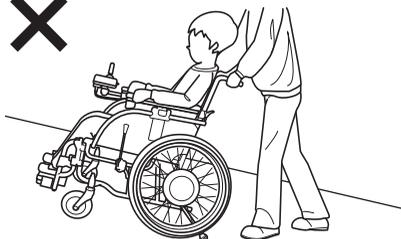
92GA1300071

介助のしかた



警告

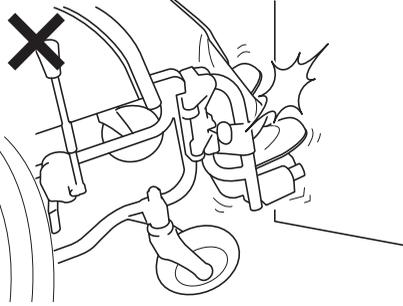
坂道では、手押し走行しないでください。衝突・転倒のおそれがあります。



92GA1300291

▲注意

- 走行中、つま先が障害物に当たらないように確認して走行してください。



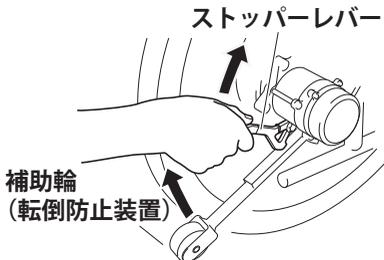
92GA1300301

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

段差の乗りこえかた

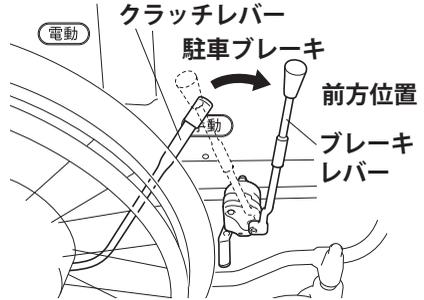
次の手順で行なってください。

- 1 左右両側のストッパーレバーを引き上げ、補助輪を上方に上げます。
→ 13ページ
(補助輪(転倒防止装置))



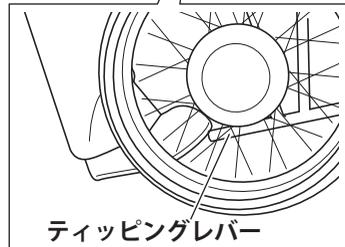
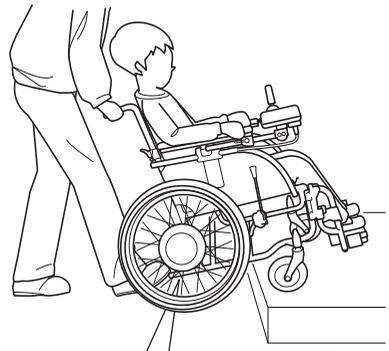
92GA220013

- 2 左右両側のクラッチレバーを「手動」位置にし、駐車ブレーキを解除します。
→ 14ページ(クラッチレバー)
→ 18ページ(駐車ブレーキ)



92GA1300371

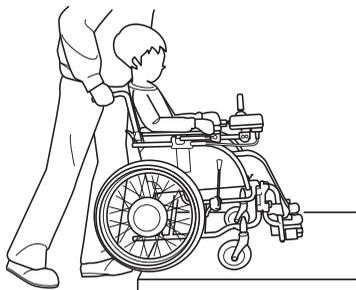
- 3 ティッピングレバーを踏んで前輪を上げます。上げた前輪を段差に載せます。



92GA130032

運転のしかた

- 4 手押しハンドルを持ち上げ後輪を浮かし、段差を乗り越えます。



92GA130033

⚠ 警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとしないでください。衝突・転倒のおそれがあります。
- 手押しハンドルのみで、前輪を上げないでください。ハンドルが曲がったり折れたりして、転倒事故の原因となります。
- 段差の乗り越えが困難だと感じたら、操作を中止してください。転倒のおそれがあります。

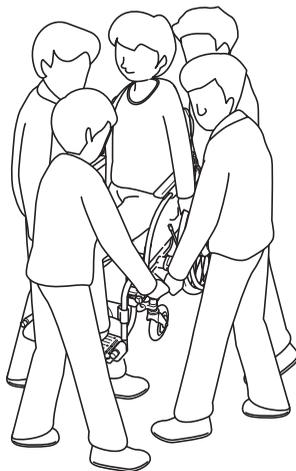
- 5 補助輪を押し下げ、もとにもどします。

⚠ 警告

段差を乗り越えたら、ただちに補助輪を降ろしてください。上げたままにしていると、転倒事故の原因となります。

使用者が乗車した状態で持ち上げる場合

カインドチェア本体のフレーム部分を持って、4～5人で持ち上げます。



92GA130034

⚠ 警告

次のような場所を持たないでください。カインドチェアの部品が外れるなどして、転倒・転落事故の原因となります。

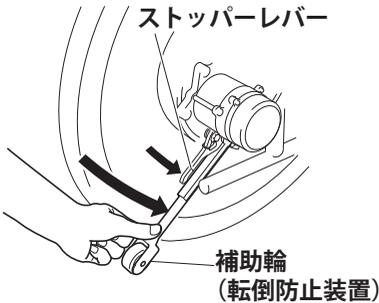
- 手押しハンドルや配線
- アームサポートやフットサポート
- バッテリーのグリップやトレイ
- 操作ボックスや操作レバー

手動での自走のしかた

注意

- タイヤを持ってカインドチェアを操作しないでください。駐車ブレーキに手があたり、けがの原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。摩擦で、手にけがをするおそれがあります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。手や指をはさんで、けがのおそれがあります。

- 1 補助輪が降りていることを確認します。
→ 13ページ
(補助輪(転倒防止装置))

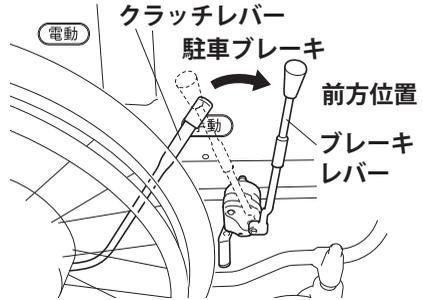


92GA220014

警告

補助輪を外したり、上げたまま走行したりしないでください。

- 2 左右両側のクラッチレバーを「手動」位置にし、駐車ブレーキを解除します。
→ 14ページ(クラッチレバー)
→ 18ページ(駐車ブレーキ)



92GA1300371

- 3 左右両輪のハンドリムを握り、後輪を回転させて移動します。



92GA130009

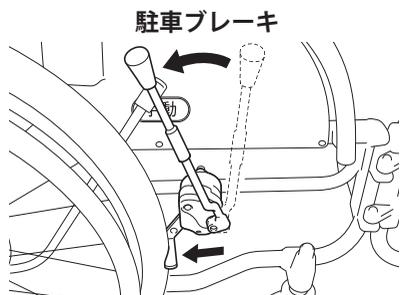
運転のしかた

電動走行のしかた

25ページの「乗り降りのしかた」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

走行の前に

- 1 左右両側の駐車ブレーキをかけます。
→ 18ページ(駐車ブレーキ)

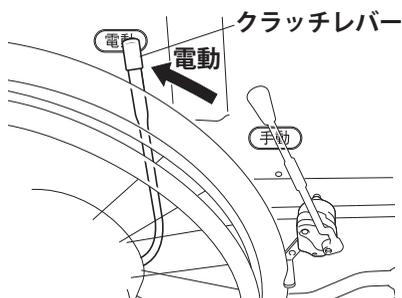


92GA1300111

▲ 注意

左右両側の駐車ブレーキがかかっているか確認してください。

- 2 左右両側のクラッチレバーを「電動」位置にします。
→ 14ページ(クラッチレバー)

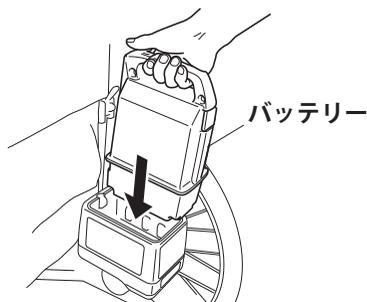


92GA1200091

▲ 注意

左右両側のクラッチレバーが「電動」位置になっているか確認してください。

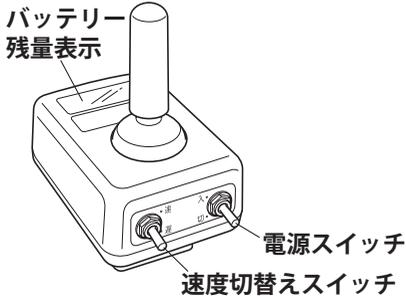
- 3 補助輪が降りていることを確認します。
→ 13ページ
(補助輪(転倒防止装置))
- 4 操作ボックスの電源スイッチが「切」位置になっているか確認して、バッテリーを装着します。
→ 14ページ(電源スイッチ)



92GA1300131

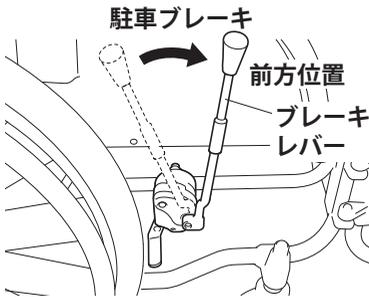
- 5 シートに深く腰かけます。
→ 25ページ(乗り降りのしかた)
- 6 電源スイッチを「入」位置にします。
- 7 バッテリー残量表示でバッテリー残量を確認します。不足している場合(残量表示が2灯以下)は、充電してください。
→ 35ページ(充電のしかた)

- 8 速度切替えスイッチで最高速度の選択をします。
→ 15ページ
(速度切替えスイッチ)



92GA130014

- 9 左右両側の駐車ブレーキを解除します。
→ 18ページ(駐車ブレーキ)



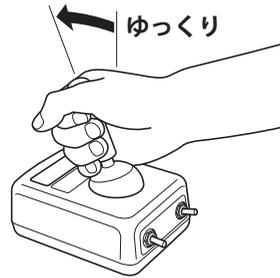
92GA1200121

▲ 注意

左右両側の駐車ブレーキが解除されているか確認してください。

発進、走行

- 1 前後左右の安全を確認します。
- 2 操作レバー（ジョイスティック）を進行したい方向に、ゆっくり倒します。
→ 16ページ(操作レバー)



92GA130016

▲ 注意

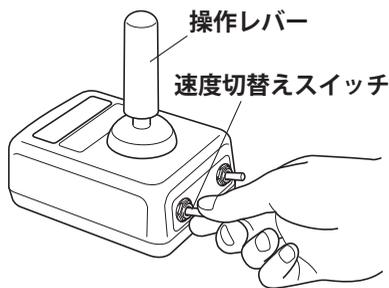
操作レバーは急激に操作しないでください。バランスをくずし、転倒のおそれがあります。

♫ アドバイス

- 近くに人がいる場合、交通量が多い場合は十分注意してください。
- 後進する場合、後方の人や障害物に注意してください。

運転のしかた

- 3 操作レバーの倒し加減で、スピードを調整します。最高速度の変更は、速度切替えスイッチで行ないます。



92GA130018

⚠ 警告

- 走行中に電源スイッチを「切」位置にしないでください。急停止し、転倒のおそれがあります。
- 走行中に警告ブザーが鳴り、同時にバッテリー残量表示が点滅するときは、次のことが考えられます。
 - 車輪が溝にはまって、モーターへの負荷が大きい。周囲の人に助けを借りてください。
 - 実用登坂角度（6°）を超えていたり、上り坂を長時間、走行したりしている。ただちに登坂を中止し、低速で慎重に方向転換して引き返してください。

⚠ 注意

- 下り坂では、速度切替えスイッチを「遅（低速）」にして前進で慎重に降りてください。
- 屋内などの狭い場所では、「遅（低速）」位置で走行してください。
- 走行中は、速度切替えスイッチを操作しないでください。
- 走行中、無線機などの強い電磁波の影響を受けると、警告ブザーが鳴り停止することがあります。この場合は、電源スイッチを「切」にし、再度「入」にすると走行可能となります。また、電源スイッチ「入」の状態でも、電磁波の影響を受けると警告ブザーが鳴り、走行できなくなることがあります。この場合も、電源スイッチを「切」にし、再度「入」にすると走行可能となります。それでも走行できない場合は、電磁波以外の原因と考えられます。購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

走行速度について

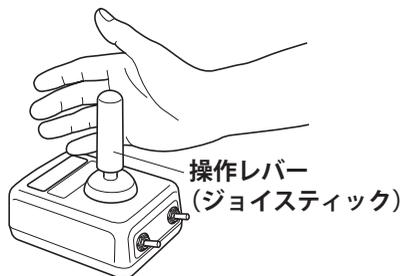
	速度切替え スイッチ位置	最高速度 (km/h)	走行の目安
前進時	速 (高速)	4.5	早足で歩く程度の速度 ●安全な広い場所での走行
	遅 (低速)	2.5	普通に歩く程度の速度 ●屋外平坦路での走行

	速度切替え スイッチ位置	最高速度 (km/h)	走行の目安
後進時	速 (高速)	2	普通に後ろ歩きする程度の速度 ●屋外平坦路での走行
	遅 (低速)		

運転のしかた

停止

操作レバーから手をはなすと、自動的に停止し電磁ブレーキがかかります。



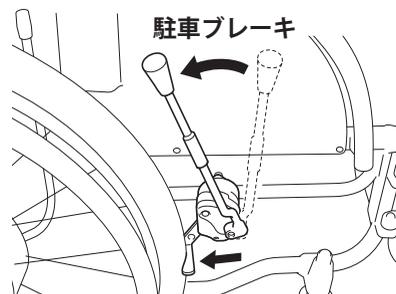
92GA1300191

▲ 注意

- 制動距離は、走行条件によって変わります。余裕をもって停止してください。
- クラッチレバーが「手動」位置では、操作レバーを操作しても発進せず、また手をはなしても電磁ブレーキはかかりません。

駐車

- 1 駐車する場合は、安全で周囲の通行を妨げない場所で停止し、電源スイッチを「切」位置にします。
→ 15ページ(電源スイッチ)
- 2 左右両側の駐車ブレーキをかけます。
→ 18ページ(駐車ブレーキ)



92GA130020

📌 アドバイス

クラッチレバーは、「電動」位置のままで駐車してください。
→ 14ページ(クラッチレバー)

充電のしかた

⚠ 警告

- 感電のおそれがあります。濡れたプラグや濡れた手で充電しないでください。



- 引火爆発のおそれがあります。充電中バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーは、可燃性ガスを発生することがあります。



- 直射日光を避け、風通しのよい場所で充電してください。
- 雨・露を受けない、湿気の少ない場所で充電してください。
- 雨よけシートなどをかけたまま充電しないでください。

⚠ 注意

- 異常充電による事故を防ぐため、次のことをお守りください。
- カインドチェア専用の充電器以外では、充電しないでください。充電できなかったり、バッテリーを傷めたりするおそれがあります。
 - バッテリーや充電器に強い衝撃を与えたり、分解や改造をしたりしないでください。

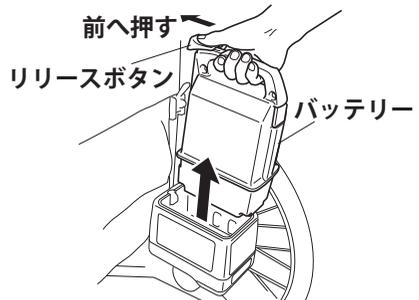
- バッテリーをカインドチェア以外には、使用しないでください。
- 幼児やペットが出入りする所では充電しないでください。
- バッテリーの周囲温度が0℃以下の低温、または30℃以上の高温では、充電しないでください。バッテリーの破損や変形、早期劣化の原因となります。

♫ アドバイス

- ラジオやテレビなどから離れたところで充電してください。雑音の原因となることがあります。
 - 充電器に貼付されているラベルをよく読んで、その指示に従ってください。
- 11ページ (ラベル)

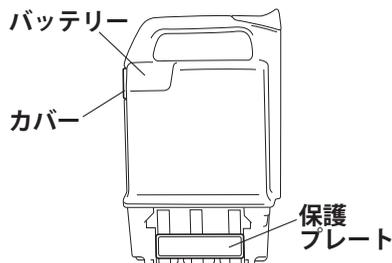
バッテリーを取り外しての充電

- 1 電源スイッチを「切」位置にします。
→ 15ページ (電源スイッチ)
- 2 リリースボタンをカインドチェアの前方向へ押しながら、まっすぐ引き抜きます。



充電のしかた

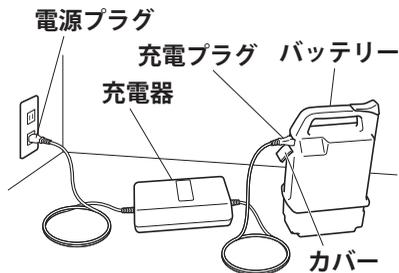
- 3 バッテリー端子の保護プレートが正しく下りているか確認します。



92GA1400021

- 4 カバーを外し、バッテリーに充電器の充電プラグをしっかりと差し込みます。

- 5 充電器の電源プラグを家庭用のAC100V コンセントに差し込みます。



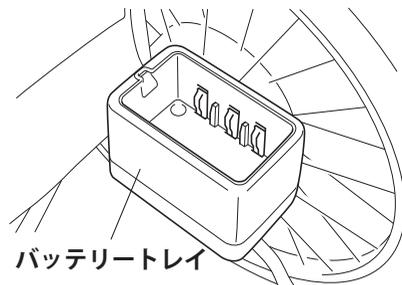
92GA1400031

⚠ 警告

- バッテリーを火の中や水の中に投下したり、加熱したりしないでください。破裂、発火のおそれがあります。
- バッテリーの (+・-) 端子を針金などでショートさせないでください。発熱、破裂、発火のおそれがあります。

バッテリーの取付け

- 1 バッテリートレイ内に変形や損傷がないか確認します。トレイ内に異物があれば取り除きます。



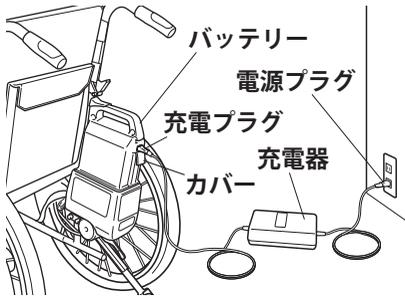
92GA34004

- 2 バッテリーをトレイ内に取付けます。

- 「カチッ」と音がするまで手を離さないよう慎重に取り付けてください。

バッテリーを装着したままの充電

- 1 電源スイッチを「切」位置にします。
→ 15ページ (電源スイッチ)
- 2 カバーを外し、バッテリーに充電器の充電プラグをしっかりと差し込みます。
- 3 充電器の電源プラグを家庭用のAC100V コンセントに差し込みます。



92GA240005

アドバイス

充電中は、カインドチェアが移動しないように必ず左右両側のクラッチレバーを「電動」位置にし、駐車ブレーキをかけてください。

二つの充電方法

バッテリーの充電には、「通常充電」と、バッテリーを回復させながら充電を行なう「リフレッシュ充電」の二つの方法があります。

アドバイス

バッテリーの周囲温度が0℃以下の低温、30℃以上の高温では、適温になるまで充電中ランプ（赤）またはリフレッシュランプ（緑）が点滅し、充電または放電ができません。（充電待機中またはリフレッシュ待機中）バッテリーが適温になると、ランプが点滅から点灯に切り替わり、自動的に充電または放電が始まります。待機時間は周囲温度などの条件により異なります。

■ 通常充電

- 1 バッテリーを接続すると、バッテリーが適温であれば、充電中ランプ（赤）が点灯し、充電が始まります。
- 2 充電が完了すると、自動的に充電中ランプ（赤）が消灯します。



92GA140006

▲ 注意

充電済みのバッテリーをさらに充電しないでください。過充電となり、バッテリーの寿命を短くします。

アドバイス

- 走行直後に充電しようとする、バッテリーの温度が高く（30℃以上）になっている場合があります。この場合はバッテリーが適温になるまで待機中となり、充電できません。
- 充電時間は、バッテリーの状態や外気温などによって異なります。（30分～6時間程度で完了）
- バッテリーを使用していなくても、月に一度は充電してください。

充電のしかた

■ リフレッシュ充電

「リフレッシュ充電」は、リフレッシュのための放電のあとに充電します。ニッケル水素バッテリーは完全に放電してから充電すると、バッテリー性能を回復させて航続距離の低下を防ぐことができます。

- 「リフレッシュ充電」は、走行できる距離が短くなった場合など月一回を目安に行なってください。

- 1 バッテリーを接続したあと、リフレッシュスイッチを押します。バッテリーが適温であれば、リフレッシュランプ（緑）が点灯して、バッテリーの放電が始まります。



リフレッシュスイッチ

92GA140007

- 2 放電が完了すると、自動的に次のようになります。

- リフレッシュランプ（緑）が消灯します。
- 充電が始まり、充電中ランプ（赤）が点灯します。



92GA140008

- 3 充電が完了すると、自動的に充電中ランプ（赤）が消灯します。

アドバイス

- 「リフレッシュ充電」（※）はバッテリーの状態や外気温などによって異なります。
※6～24時間程度
- バッテリー残量が多いときは放電時間が長くなります。「リフレッシュ充電」は時間に余裕があるときに行なってください。
- 継ぎ足し充電（バッテリー残量がある状態からの充電）を繰り返すと、1回の充電における走行距離が短くなります。このような場合は「リフレッシュ充電」をしてください。
- 「リフレッシュ充電」を2～3回続けてもバッテリーの性能が回復しなかった場合は、バッテリーの寿命です。購入店またはスズキ代理店でバッテリーを交換してください。（有料）そのまま使用していると、急激に走行距離が短くなる場合があります。

日常点検

▲ 注意

走行する前には、次の点検を必ず行なってください。異常がみられる場合には、購入店またはスズキ代理店で点検・整備を受けてから使用してください。

点検箇所	点 検 項 目
前・後輪タイヤ	空気圧は適正ですか？（後輪）
	溝の深さは十分ですか？
	亀裂・損傷はありませんか？
補助輪 （転倒防止装置）	正常に作動しますか？
	亀裂・損傷はありませんか？
キャスターフォーク （前輪）	ゆるみ・ガタはありませんか？
	正常に作動しますか？
電源スイッチ	正常に作動しますか？
速度切替えスイッチ	正常に作動しますか？
操作レバー	正常に作動しますか？
バッテリー	バッテリー残量は十分ですか？
クラッチレバー	スムーズに切り替わりますか？
駐車ブレーキ	ブレーキは効きますか？
車体各部	ゆるみ・ガタはありませんか？
モーター	異音はありませんか？
	電磁ブレーキは正常に作動しますか？
その他	グリスの漏れはありませんか？

⚡ アドバイス

走り始めは十分注意して走行し、異常がないことを確認してください。

定期点検記録簿

安全にご使用いただくため、購入後6ヵ月ごとに購入店またはスズキ代理店で点検（有料）を受けてください。

⚠️アドバイス

- カインドチェアを使っていなくても定期点検はを受けてください。
- 長期間使用しなかった場合は、使用する前に定期点検を受けてください。
- 定期点検は、購入後2年半以降も半年ごとに実施してください。

✓：異常なし A：調整 △：修理 ×：交換 T：締付け C：清掃 L：給油

点 検 項 目		6か月	1年	1年半	2年	2年半
操作ボックス	操作レバーの作動・戻り具合					
	スイッチ類の作動具合					
	コネクター接続部のゆるみ・損傷					
	取付ボルト、ナットのゆるみ					
メインコントローラー	ハーネスの損傷					
	コネクター接続部のゆるみ・損傷					
モーター	回転・異音					
	電磁ブレーキの効き具合					
	コネクター接続部のゆるみ・損傷					
クラッチ・ミッション	クラッチレバーの作動具合					
	グリスの漏れ					
バッテリー	端子のガタ・損傷					
	端子保護プレートの作動・損傷					
バッテリートレイ	端子のガタ・損傷					
	トレイの変形・損傷					
充電器	充電機能					
	プラグ・コードのガタ・損傷					
	ランプの点灯					

点検・整備

✓：異常なし A：調整 △：修理 ×：交換 T：締付け C：清掃 L：給油

点 検 項 目		6か月	1年	1年半	2年	2年半
シート ・ フレーム	シートの汚れ・損傷					
	締付ねじのゆるみ					
キャスター フォーク	キャスターフォークの損傷					
	キャスターフォークの回転の具合					
	キャスターフォーク軸受部のガタ					
タイヤ	後輪タイヤの空気圧					
	タイヤの亀裂・損傷					
	タイヤの溝深さ・異常摩耗					
	前輪タイヤの交換（2年ごと）	-	-	-		-
ホイール	ボルト・ナット類のゆるみ					
	ハンドリム・ホイールの損傷					
	スポークのゆるみ					
補助輪 (転倒防止装置)	ストッパーレバーの作動具合					
	ブラケットアームの損傷・変形					
	ピン・ボルト類の脱落等					

点検実施記録欄

	点検実施日	実施店名および実施者名
6か月	年 月 日	
1年	年 月 日	
1年半	年 月 日	
2年	年 月 日	
2年半	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	

点検・整備

長期保管後の使用前点検

▲注意

- 長期間使用しなかった場合は、使用する前に点検（有料）を受けてください。
- 1年以上使用しなかった場合は、バッテリーがいちじるしく劣化して、破損や変形している場合があります。使用する前にバッテリーを交換してください。

臨時整備記録簿

臨時整備（分解整備を含む）の記録を記入してください。

整備実施記録欄

整備実施日	整備の内容	整備を実施した者の氏名および住所
年 月 日		
年 月 日		
年 月 日		
年 月 日		
年 月 日		
年 月 日		
年 月 日		

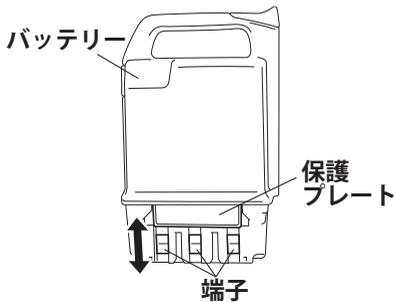
バッテリー

▲ 注意

点検・整備は、電源スイッチ「切」位置で平らな場所で行なってください。

バッテリー

- バッテリーを取り外した際、バッテリー端子の保護プレートが正しく下りるか確認します。
- バッテリー端子にガタツキがないか確認します。



92GA150001

▲ 警告

バッテリー端子の点検の際は、必ず1か所ずつ点検してください。ショートのおそれがあります。

▲ 注意

- バッテリーを分解しないでください。
 - バッテリーに貼付されているラベルをよく読んで、その指示に従ってください。
- 11ページ (ラベル)

📌 アドバイス

- 月に一度は「リフレッシュ充電」をしてください。
→ 38ページ (リフレッシュ充電)
- 交換する場合は、スズキ指定のバッテリーに交換してください。
→ 50ページ (諸元表)

バッテリートレイ

- トレイの端子にガタや損傷がないか確認します。
- トレイに変形・損傷がないか確認し、トレイ内に異物があれば取り除きます。



92GA151002

タイヤ

タイヤの状態は、走行性能やバッテリーの消費量に大きな影響を与えます。

▲ 注意

- 安全確保のため、定期的に点検してください。タイヤの点検・交換については、購入店またはスズキ代理店に依頼してください。
- 前輪タイヤは、使用開始後2年を目安に交換してください。また使用状況によっては、2年より早めに寿命がくる場合があります。

後輪タイヤの空気圧

エアゲージ（市販品）で規定の範囲にあるか点検します。不足している場合は、空気入れ（市販品）で空気を入れてください。

規定値	300kPa (3.1kgf/cm ²)
-----	----------------------------------

▲ 警告

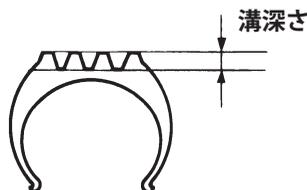
空気圧が少ない状態で使用しないでください。駐車ブレーキのロックができなくなってカインドチェアが動くなどして、事故の原因となります。

▲ 注意

エアゲージで空気圧を測定する際に、空気が抜け、空気圧が下がることがあります。

後輪タイヤの溝深さ

溝深さをデプスゲージなどで点検し、使用限度値以下の場合は、タイヤを交換してください。



92GA150003

使用限度値	0.8mm
-------	-------

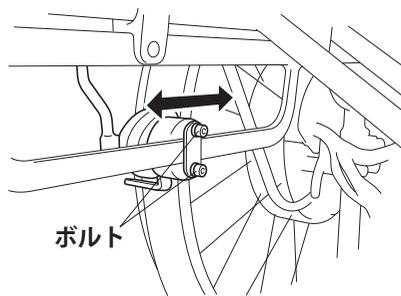
▲ 注意

使用限度値以下でのご使用は、スリップしたり、停止までの距離が長くなったりする原因となります。すみやかに交換してください。

駐車ブレーキ

駐車ブレーキの調整

ボルトをゆるめ、前後に動かすことにより、駐車ブレーキの調整ができます。



92GA150004

警告

左右両側の駐車ブレーキの調整については、必ず購入店またはスズキ代理店に依頼してください。

保管

カインドチェアは次の状態にして保管してください。

- 左右両側の駐車ブレーキをかけ、クラッチレバーを「電動」位置にします。



92GA1200091

- 電源スイッチは「切」位置にします。



92GA120001

- バッテリーは必ず外してください。



92GA1100181

注意

バッテリー端子の保護プレートが正しく下りているか確認してください。

→ 43ページ(バッテリー)

アドバイス

- 雨・露・直射日光などを受けない場所に保管してください。
- 車の中など高温になる所での保管は避けてください。
- 長期間の保管などにより過放電となったバッテリーは、充電時間が長くなります。また、バッテリーが著しく劣化します。保管しているときでも、月に一度は充電してください。

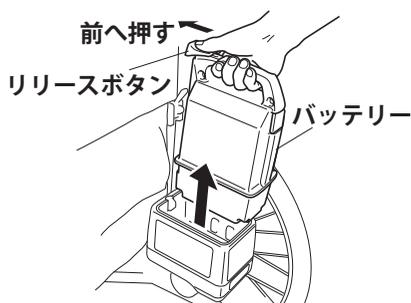
→ 34ページ (充電のしかた)

運搬

折りたたみかた

車などに積んで運搬するときには、次の手順で行なってください。

- 1 運搬中はバッテリーを外します。

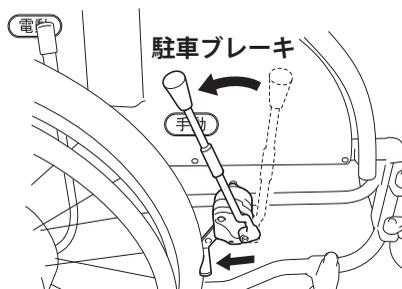


92GA1100181

警告

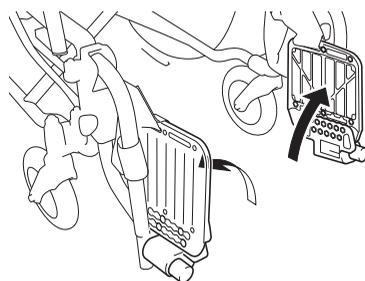
- 取り外したバッテリーは、損傷したり、濡れたりしないよう保管してください。
- バッテリーの保管は、車のトランクなどを避けてください。また、炎天下では長時間、車内に放置しないでください。

- 2 車輪がまわらないように、左右両側のクラッチレバーを「電動」位置にし、駐車ブレーキをかけます。
→ 14ページ(クラッチレバー)
→ 18ページ(駐車ブレーキ)



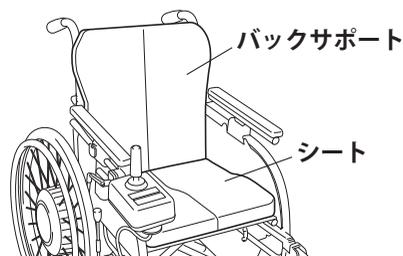
92GA1100191

- 3 フットサポートを矢印方向に回転させてたたみます。(取り外す場合は、20ページをお読みください)



92GA110020

- 4 シートおよびバックサポートを取り外します。



92GA110021

- 5 シート座面の前方と後方の中央を同時に持ち上げます。次に左右の手押しハンドルを持って押し縮めるようにたたみます。

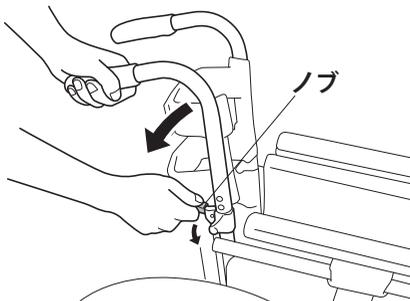


92GA110021

▲ 注意

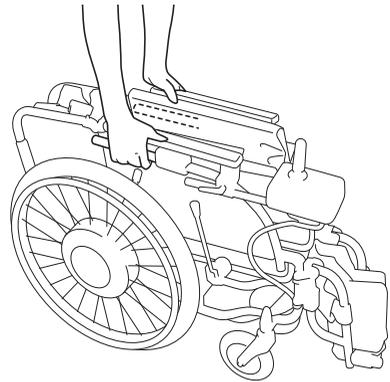
カインドチェアを折りたたむときは、配線などがはさまれていないか確認してください。

- 6 手押しハンドルは、ノブを押して下げロックを解除してから、後方下側へ倒します。



92GA110023

- 7 カインドチェア本体のフレーム部分を両手で持って、慎重に積み込みます。

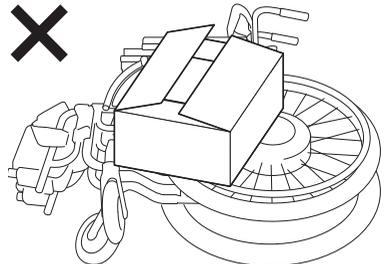


92GA1100241

- 8 運搬中は、強い衝撃が加わらないようにカインドチェアの下にクッションとなるようなものを敷いたり、動かないように固定したりします。

▲ 注意

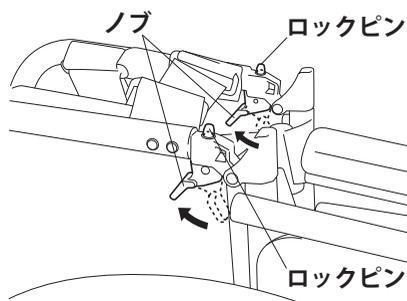
横向きに倒したカインドチェアの上に、物を置かないでください。重みで車輪やフレームが曲がるなどして、故障の原因になります。



92GA110025

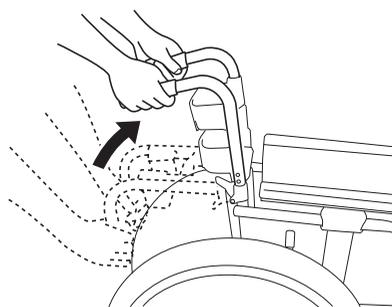
▲ 注意

- 破損防止のため、カインドチェアを持ち上げる際は、本体のフレーム部分を持ってください。絶対に次のような場所を持たないでください。
 - ・手押しハンドルや配線
 - ・アームサポートやフットサポート
 - ・バッテリーのグリップやトレイ
 - ・操作ボックスや操作レバー
- カインドチェアを上下逆にししないでください。
- 運搬の際は必要に応じて、操作ボックスの位置を調節してください。
→ 19ページ（操作ボックス）
- 精密電子部品が使用されています。強いショックを与えないでください。



92GA1100261

- 2 手押しハンドルを、「カチッ」と音がしてロックするまで矢印の方向へ持ち上げます。



揚げかた

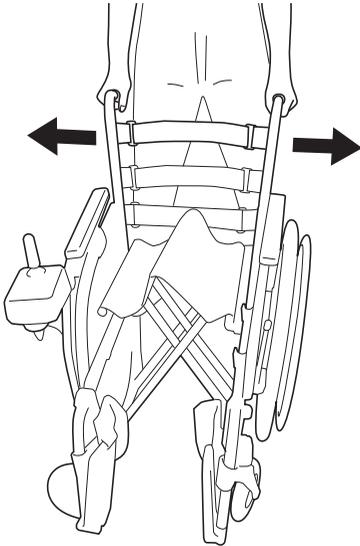
運搬後にカインドチェアを使用するときは、次の手順で揚げてください。

- 1 ロックピンの先端が出るように、ノブを矢印の方向へ引きま

▲ 注意

- 手押しハンドルを持ち上げるときは、カインドチェアを折りたたんだ状態で行なってください。揚げた状態では、ハンドルがロックできない場合があります。
- 手押しハンドルをゆするなどして、確実にロックされたか確認してください。

- 3 手押しハンドルを持ち、左右に
 扱げます。



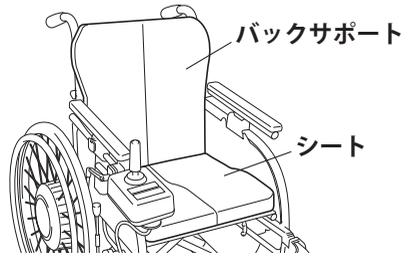
92GA1100281

- 4 片方の手押しハンドルを持ち、
 シート座面の左右両端部を下に
 押し下げます。

▲ 注意

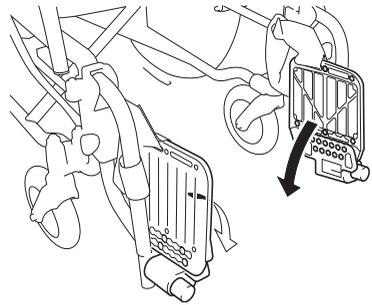
シートの横や下へ手足を入れない
 ください。フレームに手足をは
 さんで、けがのおそれがありま
 す。

- 5 シートおよびバックサポートを
 もとにもどします。



92GA110021

- 6 フットサポートを矢印の方向に
 回転させて、もとにもどしま
 す。



92GA110030

サービスデータ

諸元表

項 目		諸 元
機 種		A C 2 2
製造業者の型式		A C 2 2 B
製品の呼び方		電動車いす自操用簡易形
寸法 (全長×全幅×全高)		1,060×635×870mm
重 量	バッテリー含む	32kg
	バッテリー除く	28kg
駆 動 モ ー タ ー		DC24V・90W×2個 (30分定格出力)
バッテリー(5時間率)		20HR-DUX-SUZ (24V9Ah) ×1個
充 電 器		DC28V・1.65A マイコン制御自動充電器
タイヤ	前 輪	6"
	後 輪	22"×1 3/8 W0
駆 動 方 式		後2輪直接駆動方式
制 動 方 式		電磁ブレーキおよび発電制動・逆転制動
操 舵 方 式		電子差動操舵
制 御 方 式		マイコン制御
シート構造および寸法 (幅×奥行×バックサポート高)		クッション式固定シート 404×400×439mm
バックサポート角度		95°
最 高 速 度 ※1	前 進	高速 4.5km/h・低速2.5km/h
	後 進	2km/h
実用登降坂角度		6°
連続走行距離※2		12km
最小回転半径		755mm
段差乗越高さ※1		20mm
溝乗越幅※1		50mm
使用者最大体重		75kg (積載物を含む)

※1 試験方法は、JIS T 9203:2010 11.1.1で定められています。

※2 連続走行距離は、常温(20℃)、使用者最大体重、満充電の新品バッテリーで平坦路を前進の最高速度で連続走行し、バッテリー100%放電までの距離を示します。

静的安定性試験結果

JIS T 9203：2010 11.1.6で定められた条件のもとでの数値です。

項目	車輪ロックなしの場合		車輪ロックありの場合
	標準状態	最も不安定な状態	最も不安定な状態
後方安定性	10°	10°	10°
前方安定性	10°	10°	—
側方安定性	10°	10°	—

動的安定性試験結果

JIS T 9203：2010 11.1.16で定められた条件のもとでの数値または結果です。

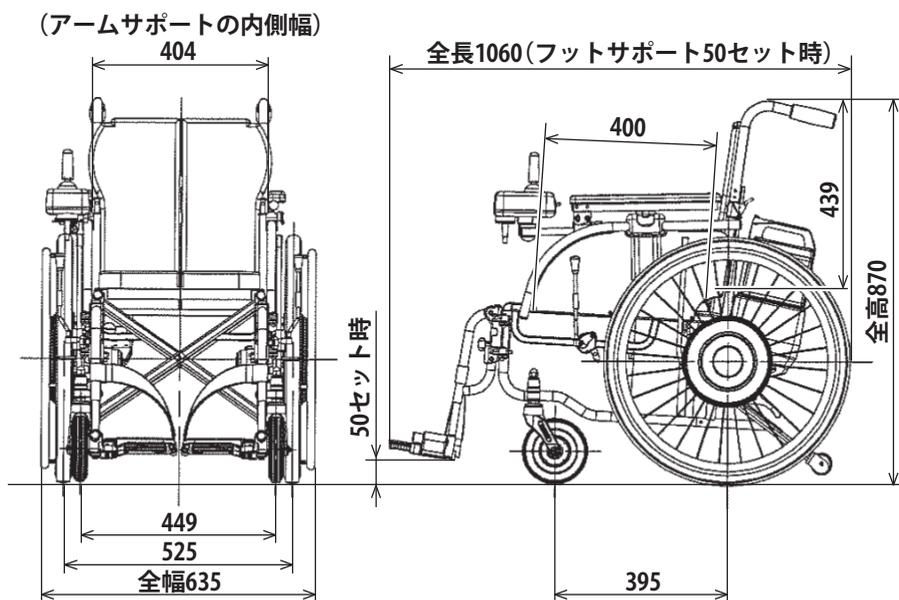
評価項目	座位の状態	
	標準位置	最も不安定な位置
斜面上での後方に対する動的安定性 (最大傾斜角度)	10°	10°
斜面上での前方に対する動的安定性 (最大傾斜角度)	10°	10°
斜面上での側方に対する動的安定性 (最大傾斜角度)	6°	6°
円旋回での側方に対する動的安定性 (最小直径)	0.7m	0.7m
急激な円旋回での側方に対する 動的安定性 (適合性)	適合	適合
前向き段差乗り上げ時における後方の 動的安定性 (最大段差高)	25mm	25mm
後向き段差降り時における後方の 動的安定性 (最大段差高)	50mm	50mm
前向き段差乗り上げ時における前方の 動的安定性 (最大段差高)	25mm	25mm
前向き段差降り時における前方の 動的安定性 (最大段差高)	50mm	50mm
斜め段差降り時における側方の 動的安定性 (最大段差高)	50mm	50mm

試験条件

転倒防止装置あり、縁石乗り上げ装置なし、搭乗者体重 75kg

外観図

単位:mm



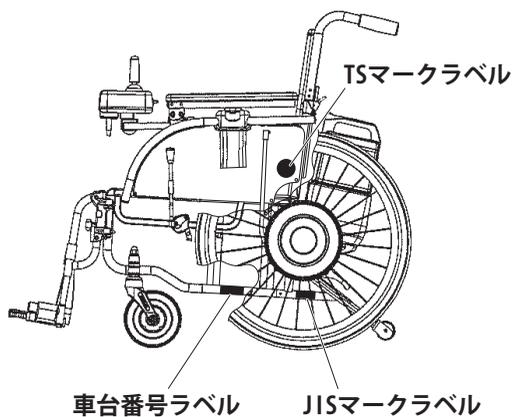
92GA37001

車台番号

アフターサービスなどを的確に行なうため、車台番号を記録しておいてください。車台番号は、フレームに貼り付けられています。

機 種	AC22
車台番号	

車台番号表示位置



92GA37002

こんなときは

カインドチェア取扱中に次のような症状がありましたら、次の点をご確認ください。それでもなおらない場合は購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

走行前

症 状	チェックポイント、処置方法
発進しない	電源スイッチが「切」になっていませんか？ ↓ 電源スイッチを「入」にしてください。 → 15ページ（電源スイッチ）
	クラッチレバーが「手動」になっていませんか？ ↓ クラッチレバーを「電動」にしてください。 → 14ページ（クラッチレバー）
	バッテリー残量はありますか？ （警告ブザーが鳴り、同時にバッテリー残量表示が1灯だけ点滅していませんか？） ↓ バッテリーを充電してください。 → 35ページ（充電のしかた）
	ブレーキがかかっていますか？ ↓ 駐車ブレーキを解除してください。 → 18ページ（駐車ブレーキ）
	電源スイッチを「入」にする前に、操作レバー（ジョイスティック）を倒していませんか？（警告ブザーが連続して鳴っていませんか？） ↓ 一度操作レバーから手をはなしてから、操作レバーをゆっくりと倒してください。 → 16ページ（操作レバー）

症 状	チェックポイント、処置方法
発進しない	<p>充電中ではないですか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>充電中や充電直後は発進できません。充電をやめ、一度電源スイッチを「切」にし、しばらくしてから再度「入」にしてください。</p> <p>→ 35ページ（充電のしかた）</p>
	<p>走行せずに電源スイッチを「入」のまま放置していませんか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>バッテリー保護のため、約5分でバッテリー残量表示が消灯し、発進できなくなります。一度電源スイッチを「切」にし、再度「入」にしてください。</p> <p>→ 15ページ（電源スイッチ）</p>

走行中

症 状	チェックポイント、処置方法
<p>警告ブザー (ピー——・・・) が鳴っている</p>	<p>実用登坂角度 (6°) を超えていませんか？ ↓ ただちに登坂を中止し、方向転換して慎重に引き返してください。 → 8ページ (急な坂道、大きな段差や溝は避けて)</p>
<p>警告ブザー (ピー、ピー) が鳴り、同時にバッテリー残量表示が点滅している</p>	<p>バッテリーとの通信が途切れています。バッテリー残量がなくなるまで走行できますが、残量表示ができません。また、コントローラの故障の可能性があります。 ↓ 電動での走行を中止し、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。</p>
<p>警告ブザー (ピー——・・・) が鳴り、同時にバッテリー残量表示が点滅して停止した</p>	<p>モーターへの負荷が大きいことを示しています。車輪が溝にはまっていたり、大きな段差を乗り越えようとしたりしませんでしたか？ ↓ 人手を借り、カインドチェアを障害物のないところまで出します。そのあと電源スイッチを「切」にし、再度「入」にしてください。 → 15ページ (電源スイッチ)</p> <hr/> <p>上り坂を長時間走行していませんか？ ↓ 電源スイッチを「切」にし、5分以上カインドチェアのご使用を控えてください。</p> <hr/> <p>電磁波の影響、またはバッテリー電圧の低下が考えられます。 ↓ 電源スイッチを「切」にし、再度「入」にしてください。それでも走行できないときは、故障が考えられます。購入店またはスズキ代理店にご相談ください。 → 31ページ (発進、走行)</p>

症 状	チェックポイント、処置方法
走行距離が短い	坂道走行、発進停止の繰り返しなどの高負荷運転を行なっていませんか？ ↓ 走行条件によっては、走行距離が短くなります。異常ではありませんので、そのままご使用ください。
	長期間放置していませんか？ ↓ バッテリーは長期間放置すると、自己放電して残量が減ります。充電してください。 → 35ページ（充電のしかた）
	「リフレッシュ充電」を行なっていますか？ ↓ 月1回を目安に「リフレッシュ充電」を行なってください。 → 38ページ（リフレッシュ充電）
	正しい充電をしていますか？ ↓ 正しくリフレッシュ充電を行なっても同じ症状のときは、バッテリーの寿命が考えられます。購入店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
	バッテリーは確実に固定されていますか？ ↓ バッテリーの取付状態を確認してください。正しく取り付けられていても同じ症状のときは、バッテリーの接触不良が考えられます。購入店またはスズキ代理店で点検を受けてください。 → 36ページ（バッテリーの取付け）

充電中

症 状	チェックポイント、処置方法
<p>充電できない （電源プラグを差し込んでも充電中ランプ（赤）が点灯しない、もしくはリフレッシュボタンを押してもリフレッシュランプ（緑）が点灯しない）</p>	<p>プラグはしっかりと差し込まれていますか？ ↓ 本書（35 ページ）に書いてある手順でやり直してください。それでも点灯しない場合は、バッテリーまたは充電器の故障が考えられます。購入店またはスズキ代理店で点検を受けてください。</p> <hr/> <p>温度の低い場所、または高い場所で充電していませんか？ ↓ バッテリーの周囲温度が0℃以下の低温、または30℃以上の高温では充電できません。暖かい場所、または涼しい場所で充電してください。 → 35ページ（充電のしかた）</p> <hr/> <p>走行直後ではありませんか？ ↓ 走行直後はバッテリーの温度が高く、充電できないことがあります。温度が下がってくると充電が始まります。</p>
<p>充電時間が長すぎる （約6時間以上）</p>	<p>リフレッシュ充電ではありませんか？ ↓ リフレッシュ充電は、6～24時間程度で完了します。 → 38ページ（リフレッシュ充電）</p> <hr/> <p>長期間保管していませんか？ ↓ 長期保管後は、充電時間が長くなる場合があります。 → 45ページ（保管）</p>

症 状	チェックポイント、処置方法
充電時間が短すぎる	電源プラグまたは充電プラグがゆるんでいませんか？ ↓ プラグが外れていると、充電器のランプが消灯して充電されません。充電をやり直してください。 → 35ページ（充電のしかた）
	満充電のバッテリーを充電していませんか？ ↓ 充電時間はバッテリー残量によって異なります。
	高温となる場所で充電していませんか？ ↓ 炎天下や暖房機具の近くなど、温度が高くなる環境では、充電が途中で停止することがあります。充電は涼しい場所で行なってください。
充電器から異音、異臭または煙がでる	ただちに電源プラグおよび充電プラグを抜いて使用を中止し、購入店またはスズキ代理店で点検を受けてください。
充電器やバッテリーが熱くなる	手で触れられないほど熱いですか？ ↓ 高温の場合は異常です。電源プラグおよび充電プラグを抜いてバッテリーをトレイから取り外し、購入店またはスズキ代理店で点検を受けてください。（通常でも多少の熱を持ちます。）
バッテリーが取り付けられない	バッテリートレイ内などに、ゴミなどの異物はありますか？ ↓ 異物などを取り除いてから、バッテリーを取り付けてください。 → 36ページ（バッテリーの取付け）
	バッテリーが逆の方向に差し込まれていませんか？ ↓ 正しい方向に差し込んでください。

※処置後も正常にならないときは、購入店またはスズキ代理店にご相談ください。

さくいん

あ

アームサポート 24
 運転時の注意 6
 運転の前に 4
 運搬 46

か

外観図 52
 介助のしかた 26
 各部の名称 2
 クラッチレバー 14
 こんなときは 54

さ

車台番号 53
 充電のしかた 35
 手動での自走のしかた 29
 使用上の注意 9
 諸元表 50
 スイッチ、レバーの使いかた 15
 静的安定性試験結果 51
 操作ボックス 19
 その他の留意事項 10

た

タイヤ 44
 駐車ブレーキ 18,44
 長期保管後の使用前点検 42
 定期点検記録簿 40
 電動走行のしかた 30
 動的安定性試験結果 51
 取扱いの方法 13

な

日常点検 39
 日常の手入れ 24
 乗り降りのしかた 25

は

バッテリー 43
 バッテリー残量表示 16
 フットサポート 20
 保管 45
 補助輪(転倒防止装置) 13

ら

ラベル 11
 リフレッシュ充電 38
 臨時整備記録簿 42

お問い合わせ、ご相談は

カインドチェアのことやアフターサービスなどについてのお問い合わせ、ご相談がございましたら、まずは、お買い上げいただきました購入店またはスズキ代理店にお尋ねください。

■お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめ次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

- ①車名および車台番号
- ②ご購入年月日
- ③ご購入店名
- ④ご相談事項
- ⑤お客様のご住所、お名前、お電話番号

購入店印

代理店印

〔個人情報の取扱い〕について

次の保証書登録票により、また今後のアフターサービス（点検、整備等）の提供に際して、購入店またはスズキ代理店が取得するお客様の住所、氏名、車両情報等の個人情報（以下、個人情報といいます。）につきましては、下記の目的に使用させていただきます。また、お客様の個人情報は、下記の目的の範囲内において、スズキ株式会社（所在地：浜松市南区高塚町300）ならびに他のスズキ代理店およびスズキ販売店に提供させていただきます。

- (1) 無償点検・修理、定期点検および保険期間満了期のご案内を提供するため、郵便、電話、電子メール等の方法によりお知らせすること。
- (2) 購入店、スズキ代理店またはスズキ販売店において取り扱う商品・サービス等あるいは各種イベント・キャンペーン等の開催について、郵便、電話、電子メール等の方法によりご案内すること。
- (3) 商品開発あるいは顧客満足度向上策検討のため、アンケート調査を実施すること。
- (4) 購入店、スズキ代理店またはスズキ販売店において取り扱う商品に関連するサービスの向上および当該サービスに関連する情報の集計・分析をすること。
- (5) その他、お客様が別途同意された利用目的のために利用すること。